



輝け！OKB517



471名+教職員46名

「有り難う」と「当たり前」

校長 山本 邦彦

夏休みが終わり、子供たちが元気に登校してきました。楽しかった夏休みの思い出に会話が弾み、校舎内に子供たちの明るい声と笑顔が溢れています。新しく3人の転入児童を迎え、学校だよりのタイトルも「輝け！OKB517」に変わりました。

今年は全国的に猛暑や集中豪雨といった異常気象が続いた夏休みでしたが、大きな事故や病気の連絡もなく、元気に2学期がスタートできることを本当にうれしく思います。また、ご家庭や地域での様々な体験や経験をし、充実した夏休みになったこと、保護者・地域の皆様のおかげと感謝しております。

さらには、夏休み中に行われました親子奉仕活動には、早朝にもかかわらず多くの方に気持ちよく2学期を迎えられる準備をしていただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、夏休み中に開催されたパリオリンピックでは、連日の熱戦にたくさんの感動をもらいました。国民の期待を背負うプレッシャーの中、積み重ねてきた厳しい練習の成果を発揮し、最高のパフォーマンスを示そうとする姿が伝わってくるからこそ数々のドラマが生まれたのだと思います。そんな選手の多くがよく口にしていたのが、「いろいろな人に支えていただきました。『ありがとうございました。』』という感謝の言葉でした。そして、試合後、熱戦を繰り広げた選手同士が当たり前のように称え合う姿から、また、感動をもらいました。

そんなオリンピックでの様子を踏まえながら、2学期の始業式で、『有り難う』の気持ちをもって過ごしましょう。『当たり前』のことを進んで行動しましょう。」と話しました。「有り難う」は「本来めったに起こらないこと。ありえないこと」、「当たり前」には「当然のこと。誰もがそう思うこと」という意味があります。私たちの生活は、家族や地域の皆さん、友達、教職員等、たくさんの方々に支えられています。そのことを「当たり前」と思うのではなく、感謝の気持ちを持ち、言葉や行動で伝えながら過ごしてほしい。その一方で、自分の身の回りのことはもちろん、正しいと思うことや学校やクラスの友達、家族の人たちが喜んでくれるだろうなと思うことを進んで行動してほしいという意味も込められています。「有り難う」と「当たり前」は対を成す言葉ですが、周りに気を配りながら何事にも一步踏み出す前向きな姿と、互いに協力し支え合いながら自他の成長を共に認め合う姿を大切にし、実りある2学期にしていきたいと考えています。

2学期のスタートに当たり、学校生活のリズムを取り戻すだけでなく、熱中症対策や感染症予防等、「当たり前」のように配慮していく必要もあります。子供たちが安心して過ごすことができるよう環境を整えると共に、子供たちに寄り添い、心のケア、学習への支援等に全力で取り組み、「有り難う」の溢れる学校になるよう努めてまいります。

2学期も保護者や地域の皆様のご理解・ご協力、よろしくお願いたします。